

エコアクション21 (E A 2 1)

環境活動レポート

2010年度

(2010年2月～2011年1月)

承認	作成
岩崎 (厚)	澤田

作成：2011年3月23日

株式会社 小名木川ギヤー

I. 組織の概要及び略歴

会社概要

1. 事業所名及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役社長 岩崎 厚三

2. 所在地

本社： 〒135-0003 東京都江東区猿江1-2-7

(審査対象外) TEL 03-3631-0037(代)

FAX 03-3635-0868

E-mail ong@green.ocn.ne.jp

千葉工場： 〒299-4111 千葉県茂原市萱場1525番地

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

大網分工場： 〒299-3251 千葉県山武郡大網白里町大網1803番地

TEL 0475-73-1816

FAX 0475-73-1816

3. E A 2 1 責任者・連絡先

管理責任者 常務取締役工場長 澤田 長師
連絡先 環境事務局 生産管理部長 並木 輝夫

TEL 0475-34-4536

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

4. 事業の規模

従業員数 86名(2011年1月)

売上高 1,823(百万円) / 2010年1月期

敷地面積 本社 366m²

千葉工場 6,982m²

大網分工場 1,340m²

床面積 本社 195m²

千葉工場 3,707m²

大網分工場 842m²

5. 会社沿革

当工場の沿革を次に記述する。

大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。

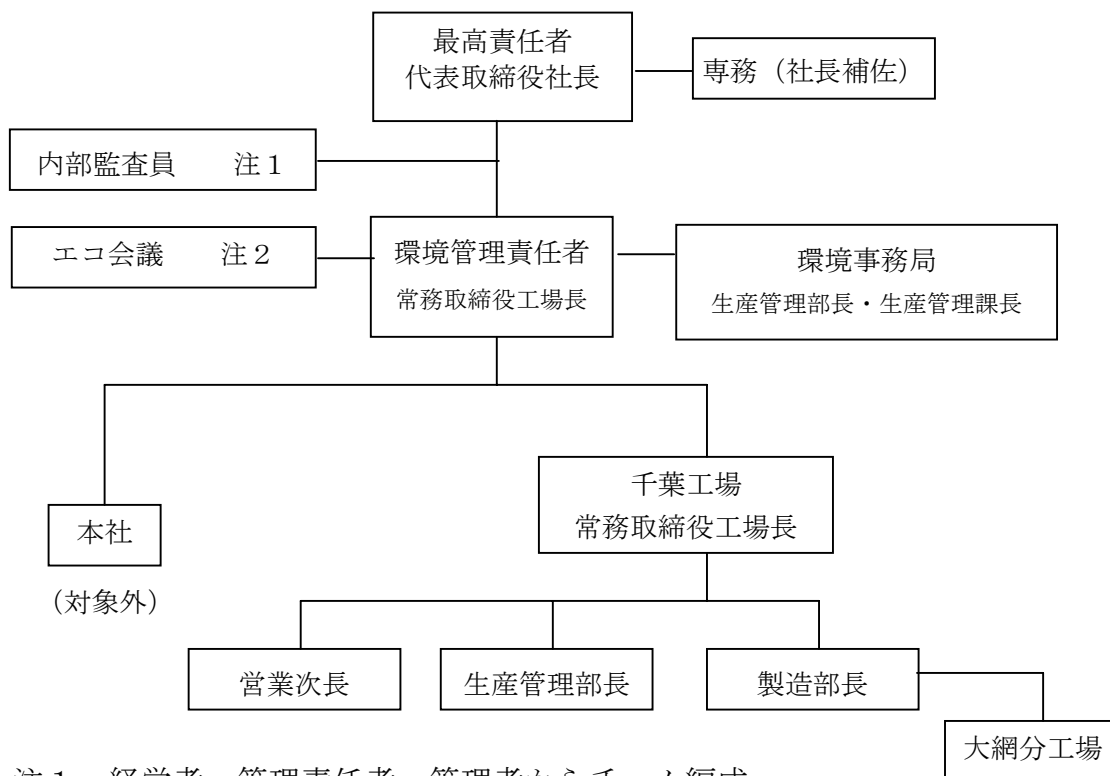
昭和19年 深川区猿江町に本社、工場を移設。

- 昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。
- 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2000万円。
- 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。
- 昭和61年 製造業務をすべて集結。
- 平成2年 日立製作所製オフコンを導入。生産管理を稼動。
- 平成12年 クライアントサーバシステム新生産管理システムを稼動。
- 平成15年 ホームページ公開 (URL : <http://www.onagigawa.co.jp/>)
- 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。
- 平成19年 改良生産管理システムを稼動。

6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料（主として鋼材）調達から、機械加工、熱処理（取引先に外注）、表面処理（取引先に外注）、梱包、輸送までの一貫した事業を行っている。

7. 環境組織図



注1：経営者・管理責任者・管理者からチーム編成

注2：委員長：管理責任者、委員；社長・専務・顧問・部門長

II. 対象範囲

対象は千葉工場(大網分工場を含む)であり、本社は適用を除外する。
次回、更新時に全社適用範囲で認証登録を検討する。

Ⅲ. 環境方針

基本理念 — 我らの地球を守ろう！ —

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

基本方針

1. 歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。
3. 当社が行う環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
 - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み
 - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減
 - 3) 調達品のグリーン購買
4. 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的に活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。
5. 本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境活動レポートを作成し、社外に公表します。

2011年1月25日
株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役社長 岩崎 厚三

IV. 環境目標

1. 環境負荷の実情

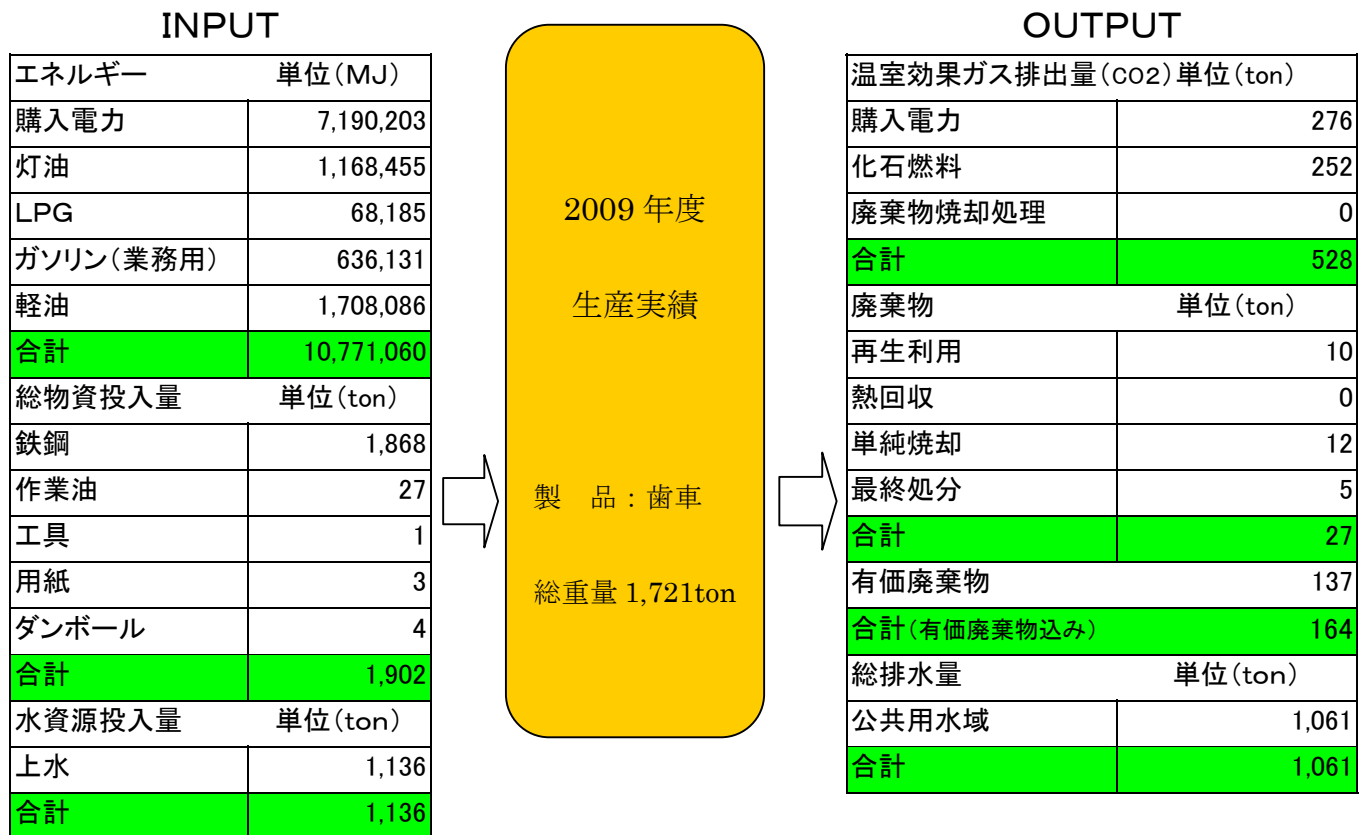
2009年度千葉工場における環境負荷（電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量）の実情は次の通り。

項目	単位	2009年度
電力使用量	kwh/実働延人員	47.18
灯油使用量	L/月	2,655
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員	4.10
LPG使用量	kg/月	113
二酸化炭素排出量	ton/実働延人員	0.033
一般廃棄物排出量	kg/実働延人員	0.77
産業廃棄物排出量	kg/実働延人員	0.33
総排水量	m ³ /実働延人員	0.068

注1. 2009年度は2009年2月～2010年1月の実績

また、2009年度の環境マテリアルバランスは次図の通り。

環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷を低減することを検討するために、資源やエネルギーなどの投入量及び二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し、図式化した一覧表である。



CO₂生産比率（CO₂排出量1トン当たりの生産重量高比）を算出し、この指数を毎年改善していく。2009年度の実績は、製品重量（1,721ton）/CO₂排出量（528ton）=3.3

2. 環境目標

2009 年度から環境目標は、いずれの項目とも前年度の実績を基準として活動を行うこととし、その低減率を下表のように設定している。

2010 年度も同じく下表のとおり設定した。

項目	単位	2009 年度	2010 年度	2011 年度
電力使用量	kWh/実働延人員	前年度実績を基準として Δ 3%低減		
灯油使用量	L/月	〃	Δ 3%低減	
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員	〃	Δ 3%低減	
LPG 使用量	kg/月	〃	Δ 3%低減	
1.二酸化炭素排出量	ton/実働延人員	〃	Δ 3%低減	
2.一般廃棄物排出量	kg/実働延人員	〃	Δ 5%低減	
3.産業廃棄物排出量	kg/実働延人員	〃	Δ 3%低減	
4.総排水量	m ³ /実働延人員	〃	Δ 5%低減	

V. 主要な環境活動計画の内容

No.	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消灯（月4回程度巡回点検） ②工場事務所のエアコン適温化（夏季：28℃、冬季：20℃） ③電気ストーブ周りの適温化（足元温度：25℃以下） ④エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消火（月4回程度巡回点検） ②灯油ストーブ周りの適温化（室温：20℃以下） ③洗浄油再利用の活性化
3	ガソリン・軽油 使用量	前年度実績 3%低減	①輸送ルートの事前検討励行（運行管理者による日常指導） ②フォークリフト省エネ運転励行（管理者注視による指導） ③社有車の計画的運行 ④省エネ社有車の導入
4	LPG使用量	前年度実績 3%低減	①ガスのストーブ周りの適温化（室温：20℃以下）
5	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	①梱包緩衝材をリユース材への変更 ②コピーの縮減、裏紙利用促進 ③分別励行による可燃物縮減
6	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	①廃油リユース ②産業廃棄物の適正処理 ③工事排出物の業者指導（発生都度実施） ④破損パレット返却励行
7	総排水量	前年度実績 5%低減	①蛇口付近に節水励行札取り付け ②節水コマの取付け ③朝礼等にて啓蒙活動
8	調達品のグリーン 購買	事務用品に適用	①注文時にグリーン用品を指定 ②納入品のグリーンマーク確認

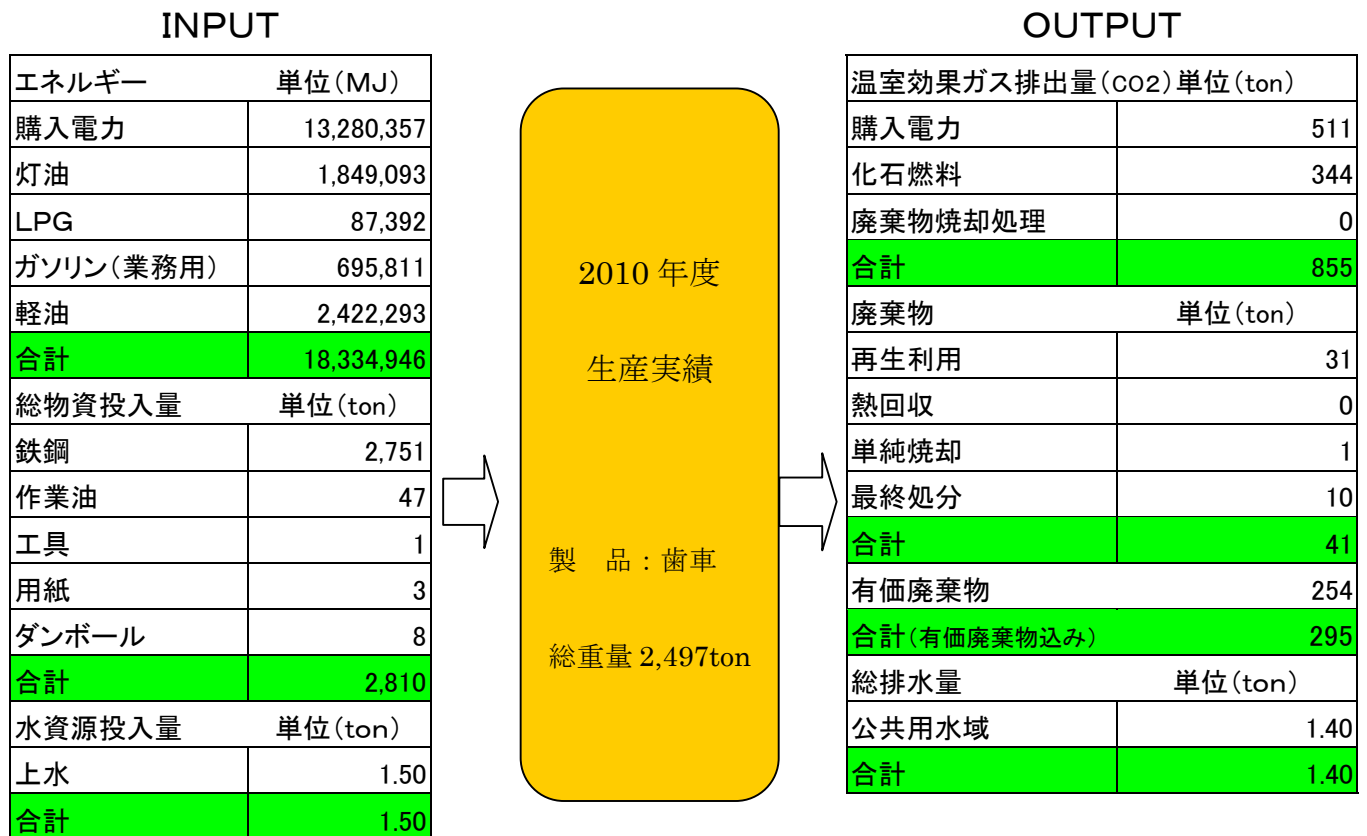
VI. 2010年度における環境目標とその実績

2010年度の目標に対する実績は次の通り。

項目	単位	目標値(月)	実績	判定
電力使用量	kWh/実働延人員比	45.76	58.62	未達成
灯油使用量	L/月	2,575	4,198	未達成
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員比	4.00	3.62	達成
LPG使用量	kg/月	110	145	未達成
二酸化炭素排出量	ton/実働延人員比	0.033	0.037	未達成
一般廃棄物排出量	kg/実働延人員比	0.73	0.58	達成
産業廃棄物排出量	kg/実働延人員比	1.21	1.74	未達成
総排水量	m ³ /実働延人員	0.067	0.061	達成
調達品のグリーン購買	件数	事務用品全点	OK	達成

二酸化炭素排出係数：0.378使用

2010年度の環境マテリアルバランスは次図の通りとなった。



この表から、CO₂生産比率(CO₂排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出した結果は、製品重量(2,497ton)/CO₂排出量(855ton)=2.9となった。

2009年度が3.3のため、低下してしまっただが、原因は年度前半までは昨年来からの景気悪化による生産量の落ち込み、年度後半は受注量が予想を大きく上回って増加したために生産体制整備が間に合わず、時間外労働と急遽社員を採用したことが影響したものであり、今後徐々に生産体制と生産管理の改善を図り修復していく予定である。

VII. 環境保全活動の取組み結果の評価

1. 2010年度の目標に対する評価

二酸化炭素排出量：目標値をクリアできなかった。個々の項目について、次に記す。

電力使用量：目標値を大幅にオーバーした。春先の長期低温と秋口の異常な高温が長期に亘って続いたために、エアコンとスポットクーラーの使用が増加した。

(目標値のベースとした2009年度は気象状況が逆であった。)

また、年度後半には受注量が大幅に増加し、それに伴い加工機械・人員・時間外労働等が増加し、電気使用量が増加した。

灯油使用量：目標値を大幅にオーバーした。原因は電気と同様、異常気象のためである。

ガソリン・軽油使用量：活動計画が順調に実行され目標値をクリアできた。

LPG使用量：目標値を大幅にオーバーした。原因は電気・灯油と同じである。

一般廃棄物排出量：全般的に排出量は確実に減少している。梱包緩衝材を従来の紙のダンボールからリユースできるプラスチックダンボールに切替しているために実績が挙がってきている。事務用コピー紙の裏紙使用も確実に実行されつつある。

産業廃棄物排出量：目標値を少しだけオーバーしたが、今年度老朽機械を整理・整備したことにより廃棄物が発生・排出量が増加した。これは一時的なもの判断する。

総排水量：従業員に対する啓蒙活動を実施したことにより、達成できた。

2. 内部監査・外部監査の結果

1) 内部監査

年度計画どおり2010年12月21日に実施した。

その結果の不適合指摘項目に対しては、全て期限どおり是正処置が施され、その後のマネジメントレビューで了承された。

2) 外部監査

活動中、ある程度良好な実績が得られていたので、外部監査は実施しなかった。

外部からの要求もなかった。

以上の結果、環境方針・環境目標は現状維持することにした。

3. 環境への取組みの自己チェック

2009年度と2010年度のチェック結果を下表に示す。

いずれの項目も評価結果に問題はないと思料する。これは、全従業員を巻き込み、トップマネジメントととして取り組むことができている証と評価している。

現時点で取組の必要な項目は概ね満足できる状態と判断しているために、維持管理を継続していく所存である。

項 目	評 価 点	
	09年5月 (前年度)	10年10月 (今年度)
1. 事業活動へのインプットに関する項目	20/32	72/97
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	93/98	34/62
3. 環境経営システムに関わる項目	60/68	
4. 製品及びサービスに関する項目		21/42
5. その他		16/32
合計評価点	173/198	168/208

2009年度と2010年度で項目が相違するのはガイドラインが2004年版から2009年版に変わり、それに伴ってチェックシートが変更されたためである。

※以上の規制値は平成元年 2 月 23 日施行である。当工場の建築及び機械配置は、この施行日以前に建築・配置しているため適用外。今後、増改築及び機械配置する場合には適用する。

2. 利害関係者による評価

今期中（2010 年 2 月～2011 年 1 月）は利害関係者による指摘・評価等なし。

3. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規に対しての違反を調査した結果、違反はありません。また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去 4 年間ありません。

IX. 代表者による全体評価と見直しの結果

内部監査実施後に 2011 年 1 月 20 日にマネジメントレビューを開催し、環境方針、環境目標、環境改善活動計画とその実績及び環境組織が適正に運用及び実施されていることが確認された。